

テル・レヘシュ遺跡発掘調査へのボランティア参加

イスラエルのガリラヤ地方で、日本の発掘隊が1990年以來、調査を続けています。2007年からは、タボル山にほど近いテル・レヘシュ遺跡を調査中です。この発掘調査には、本研究室も、2013年以來、科学研究費基盤研究（A）（海外調査、研究代表者・市川裕）の課題「ユダヤ・イスラーム宗教共同体の起源と特性に関する文明史的研究」及び「イスラエル国ガリラヤ地方の新出土シナゴグ資料に基づく一神教の宗教史再構築」の一環で参加しています。昨2016年夏、ここでシナゴグと思われる遺構が出土し、出土した土器片の形態から、建設時期は西暦1世紀に遡ると考えられています。エルサレム神殿が健在で恐らくナザレのイエスが活動した時代に発すると思われませんが、南北8.5m、東西方向は一部未調査で、矩形で質素な集会場のような形式であり、今後の調査に期待がもたれています。昨年は、本研究室所属の学部生と大学院生が5人もボランティアとして発掘調査に参加しました。

